

第112期 中間期 株主の皆様へ
2008.4.1➡2008.9.30

Toyo Kohan Interim Report



株主の皆様へ



目次

| | |
|-----------|----|
| 株主の皆様へ | P1 |
| トップインタビュー | P2 |
| 業績ハイライト | P5 |
| トピックス | P8 |
| 財務諸表(連結) | P9 |

株主の皆様には、ますますご清栄のこととおよこび申し上げます。

ここに第112期中間期「株主の皆様へ」(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当中間期の業績につきましては、ホットコイル等の諸資材価格が大幅に値上がりしましたが、主力の缶用材料の販売数量増に加え、生産性向上及び製造原価低減に傾注したことや、製品価格見直しについてユーザーから概ねのご理解をいただいたことで前年同期に比べ売上高、営業利益、経常利益、中間純利益とも大きく上回ることができました。

今後の見通しにつきましては、米国の金融不安を発端とした世界経済の同時減速や為替変動から、当面厳しい経営環境が続くことが懸念され、予断を許さない状況にあります。当社としてはこれまで以上に中期経営計画を推進し、生産性向上及び製造原価低減にも取り組み、収益拡大を目指してまいります。

なお、中間配当金につきましては、1株につき3円とし、12月5日からお支払いすることとしました。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年12月
代表取締役社長

田中厚夫

トップインタビュー

Q. 当中間期の業績についてお聞かせください。

A. 当中間期は米国サブプライムローン問題を発端とする世界的な景気の停滞に加え、ホットコイルなどの原材料価格が高騰するなど、当社にとって厳しい事業環境が継続いたしました。このような環境の中、当社は従来以上に生産性の向上や製造原価の低減に努め、その結果、当中間期の連結業績は売上高660億4百万円（前年同期比11.1%増）、営業利益49億71百万円（前年同期比158.0%増）、経常利益52億20百万円（前年同期比177.8%増）、中間純利益33億円（前年同期比184.0%増）となりました。

セグメント別にみますと、主力である鋼板関連事業の売上高は、前年同期比11.5%増となりました。原材料価格の高騰を受けた製品価格の見直しをユーザーにご理解いただけたことに加え、缶用材料や自動車部品の需要が拡大しております。とくに当中間期は、ニッケルめっき鋼板「ニッケルトップ」が、自動車向けに広く採用されたことが大きな成果でした。2、3年前から既存製品の用途開拓に注力してまいりましたが、ようやくその成果が現れ始めました。

機能材料関連事業についても、副資材などの原材料価格が高騰した影響を受けながらも、販売の増加と生産性の向上によって増収増益となっております。新規事業として育成中の化成品事業も、順調に事業規模を拡大しております。

このように、当中間期は厳しい環境の中でも、計画通りの業績を残すことができました。一人ひとりの従業員が本当に頑張ってくれたと感謝しています。

Q. 下期の事業環境の見通しをお聞かせください。

A. 欧米経済が混迷の度を深め、国内外の景況は、まったく先が読めない状況です。景気の先行きについては、当面厳しい状態が続くだろうと思われませんが、いつ回復に転じるのかを現時点で予測することは困難です。しかしこうした外的要因に惑わされることなく、今後も引き続き事業の強化・育成に邁進してまいります。

現在のところ、当社にとって最大の懸念材料は為替相場の動向です。円高が行き過ぎると、当社にとって収益面で大きくマイナス要因となります。世界経済という大きな枠組みの中での事象に対して、当社が取れる対策は限られていますが、為替リスクを最小限に抑える経営努力を継続し、10月30日に発表した通期業績の数値目標を達成するよう努力してまいります。

Q. 中期経営計画の進捗状況はいかがですか？

A. 「企業の社会的責任（CSR）の遂行」「既存事業の収益回復・維持」「成長・収益拡大化」の基本方針を掲げた3カ年の中期経営計画は、この上期でちょうど折り返し点となりました。既存事業の収益回復・維持に向けた取り組みとしては、10月30日に発表した磁気ディスク用ガラス基板事業からの撤退などがあり、業体の中身は当初の計画時から変更した部分はありますが、数値をみると計画通り進んでいるとい

トップインタビュー

えます。

一方、最終年度である2009年度の数値目標として掲げた「連結売上高1,400億円、連結経常利益95億円」については、売上目標は達成も視野に入っているのですが、経常利益の目標は、景気動向に加えて為替動向の推移など、注視しなければならない事が多々あり、世の中の変動に対して取りこぼす可能性がありますが、11月から「総コスト削減プロジェクト」を発足させ、20余名が専任でコスト構造の抜本的な見直しに挑戦してまいります。加えて中国市場への販路開拓を急ぐなど、厳しい経済環境の中でもタフに生き残り、掲げた数値目標に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

Q. 中期経営計画の遂行を通じて東洋鋼鋳はどう変わってきましたか？

A. 数値目標を達成することはもちろん大切ですが、私が中期経営計画を遂行する上で最も重視してきたのは、経営陣、従業員の意識改革です。言われたことに従うだけではなく、自分の仕事が、会社の中でどのような役割を担っており、自分にはどんな責任があり、そのためには何をやるべきなのか、ということを一人心算で常に考える組織でなければなりません。率直に申し上げますと、今までの東洋鋼鋳にはそれが足りなかったのです。私はこうした仕事ぶりを大幅に見直し、従業員一人ひとりが仕事の目的を明確にし、目的の達成のために自分の頭で考えることを訴え続けています。

意識改革はまだ道半ばですが、いろいろな部門で少しずつ成果も現れてきています。例えば、当社の主力工場である山口県の下松工場では、私が工場長を勤めていた5年前と比べて格段のコスト削減を実現しています。

会社の能力とは、そこで働く人たちの能力の総和です。会社が強くなるには、個人の能力を開花させなければなりません。そのためには、能力を開花させる仕事を我々経営陣が与えてやらねばならないと考えています。中期経営計画には、東洋鋼鋳の仕事の幅を広げ、個人が活躍する場を広げるという狙いもあるのです。

Q. 最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A. おかげさまで当中間期は事業環境の激変という逆風に苦しみながらも、目標通りの経営成績を残すことができました。ただ、このところの世界経済の混乱ぶりを鑑みますと、今後しばらくは厳しい事業環境が続くことは避けられそうにありません。しかし、当社にはすでに、一つひとつの実績が自信を生み、それが次の実績に繋がっていくという好循環が、芽生えつつあります。多少時間はかかるでしょうが、数字も内容も、見違えるほどよい会社に生まれ変わらせることができるとの信念を持って経営に臨んでおりますので、皆様には是非、短期的な業績の変動だけでなく、中長期的な視点で当社の成長をご評価いただきたくお願い申し上げます。

当中間期の配当金につきましては、前中間期比0.5円増配し、1株当たり3円とさせていただきます。事業環境は決して予断を許しませんが、今後もより多くの収益を追求し続け、その成果を皆様と分かち合えるよう努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



基本方針

中期経営計画

企業の社会的責任
(CSR)の遂行

既存事業の
収益回復・維持

成長・収益拡大化

計画の骨子

1 企業の社会的責任 (CSR) の遂行

- 法令順守の徹底
- 内部統制の強化
- 環境経営の徹底

2 既存事業の収益回復と維持

- 経営資源の見直し、特化
- グループ経営の強化
(東洋製罐グループ全体でのグループ経営強化)
- 他社とのアライアンス深化による提携課題の推進

3 成長・収益拡大化

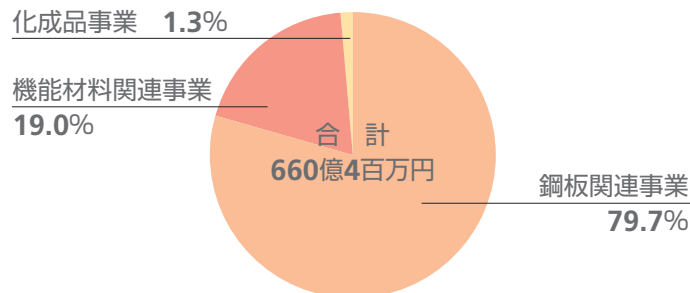
- 既存事業の成長へ向けての基盤作り
- 新規事業の立ち上げ—光学用・容器用機能フィルム

業績ハイライト

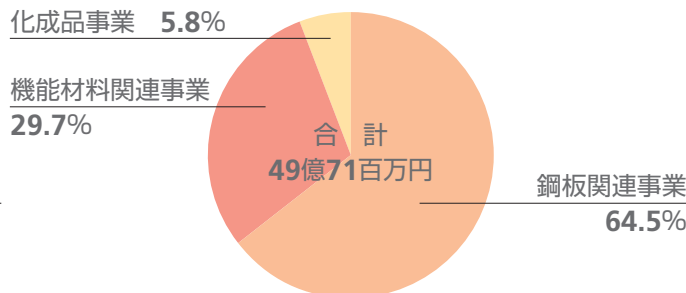
| | |
|-------|--------------------------|
| 売上高 | 660億4百万円 (前年同期比 11.1%増) |
| 営業利益 | 49億71百万円 (前年同期比 158.0%増) |
| 経常利益 | 52億20百万円 (前年同期比 177.8%増) |
| 中間純利益 | 33億円 (前年同期比 184.0%増) |

[財務諸表はP9～P10に掲載しています]

セグメント別連結売上高構成比



セグメント別連結営業利益構成比



当中間期の概況

当中間期（平成20年4月1日～平成20年9月30日）におけるわが国経済は、米国の金融不安を発端とした世界経済の同時減速と個人消費の頭打ちなどにより後退局面に入りました。

鉄鋼業界では、原材料において新興国の旺盛な需要もあり鉄鉱石、石炭などの原料コストの一段の上昇が見られ、需給状況はタイトでしたが、景気減速に伴ってやや緩む傾向が見られました。

このような状況の中で、当社グループは、ホットコイル等の諸資材価格が大幅に値上がりしましたが、主力の缶用材料の販売数量増に加え、生産性向上及び製造原価低減に傾注したことや、製品価格見直しについてユーザーから概ねのご理解をいただけたことにより前年同期を大きく上回ることができました。

事業別の概況

鋼板関連事業

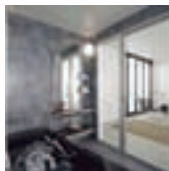
| | |
|------|------------------------|
| 売上高 | 526億3百万円（前年同期比 11.5%増） |
| 営業利益 | 32億5百万円（前年同期比 238.8%増） |



飲料缶



電池材



ユニットバス



自動車部品（燃料パイプ）

<缶用材料>

飲料缶材は、コーヒー飲料の旺盛な需要やビール類の採用アイテム増加の影響から、これらの素材であるスチール、アルミラミネート材がそれぞれ前年同期を大幅に上回りました。また18ℓ缶材の塗料、接着剤向けは建築需要低迷の影響があったものの期初の需要増により、缶用材料全体としては前年同期を大きく上回りました。

<電気・電子部品用材料>

電池材は、国内は新型アルカリ電池向けの受注拡大や、モバイルパソコン用のリチウムイオン電池向けが好調に推移したことや、海外はユーザー一部撤退の影響の懸念があったものの、国内外とも安定的な受注によりそれぞれ堅調に推移しましたが、縮小傾向にあるブラウン管用部材の影響が大きく、電気・電子部品用材料全体として前年同期を下回りました。

<建築用材料>

ユニットバス向けの内装材は、依然として昨年の改正建築基準法により住宅着工数が低迷していることから、前年同期をやや下回りました。

<自動車部品・機械部品用材料>

自動車部品は、国内ユーザーの好調な需要と海外のシェアアップに努めたことなどで前年同期を上回りました。機械部品として使用されるベアリング材は、中国でのエアコン向けの旺盛な需要があったことで前年同期を大きく上回りました。梱包資材用帯鋼も鉄鋼業界全体の好調により前年同期を上回りました。

機能材料関連事業

| | |
|------|------------------------|
| 売上高 | 125億26百万円（前年同期比 6.5%増） |
| 営業利益 | 14億78百万円（前年同期比 26.9%増） |



磁気ディスク用基板



結束機



硬質合金

<磁気ディスク用基板>

磁気ディスク用アルミ基板は、為替変動や価格競争激化の影響を受けたことにより販売単価が下落したものの、サーバー用途を中心とした旺盛な需要を背景に、生産能力増強、生産性向上が寄与し、前年同期をやや上回りました。

<機械器具及び硬質合金>

コイル結束装置などの機械器具は、結束機の需要に若干弱い動きが見られたものの、工業用器具のバルブ自動開閉機等が堅調に推移したことで、ほぼ前年同期並みに推移しました。硬質合金は、主力の射出成形機部品の耐熱性、耐食性及び耐摩耗性がユーザーから高く評価されたものの、電子部品をはじめ射出成形業界全体の需要減の影響を受け、低調に推移しました。

化成事業

| | |
|------|----------------------------|
| 売上高 | 8億89百万円（前年同期比 99.9%増） |
| 営業利益 | 2億87百万円（前年同期は1億85百万円の営業損失） |



ファインキャストフィルム

<光学用機能フィルム>

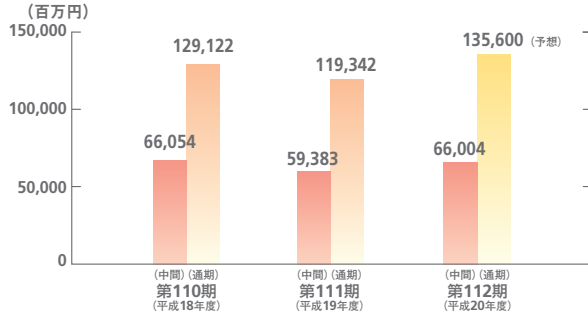
フラットパネルディスプレイ向けは、着実に増加しました。

<容器用機能フィルム>

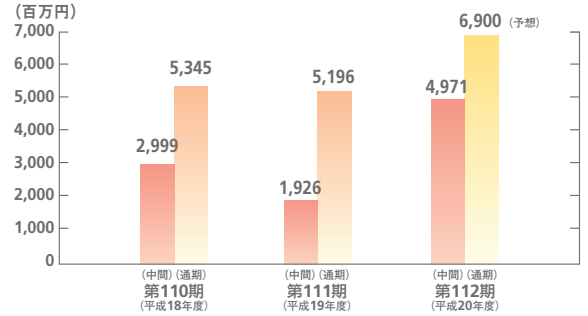
飲料缶胴材用途向けは、概ね順調に推移しました。

なお、各事業の売上高、営業利益は事業間の取引による金額を含んでおります。

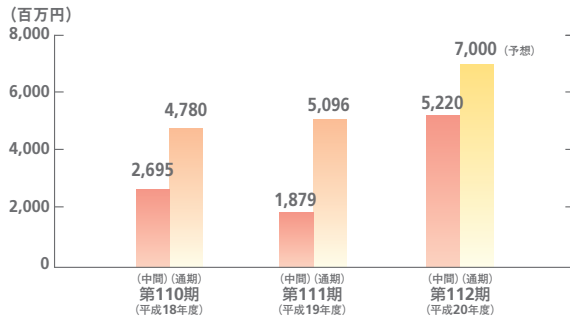
連結売上高



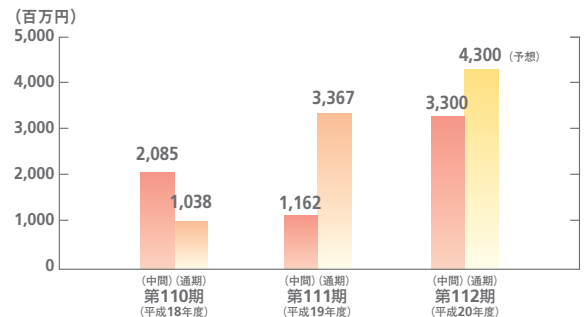
連結営業利益



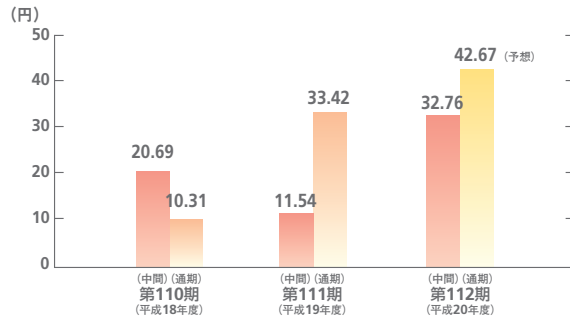
連結経常利益



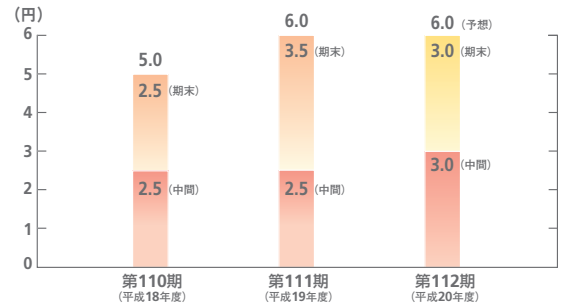
連結中間(当期)純利益



1株当たり連結中間(当期)純利益



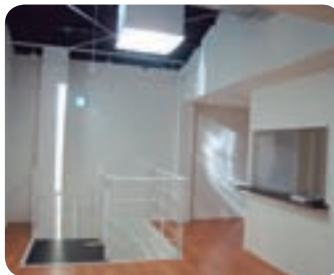
配当



トピックス

環境配慮型建材ショールーム 「エコライフプラザ」設置

本社ビルのすぐ隣に、環境配慮型建材ショールーム「エコライフプラザ」を設置しました。ここでは主に建材用途として使用される樹脂化粧鋼板、植毛鋼板、銀鏡めっき鋼板を展示しており、6月には桜井環境副大臣（当時）が来訪されました。



「住まいるフォーラム2008」に どこでも光窓を出展

9月20日、21日の2日間にわたり、東京ビッグサイト国際展示場において「住まいるフォーラム2008」が開催されました。当社の製品である銀鏡めっき鋼板を使用した光ダクト「どこでも光窓」を設置するなど展示に工夫を凝らしたところ、多くの方々にご訪問いただき、大盛況のうちに終えることができました。

「やまぐちいきいきエコフェア」に 当社下松工場も出展

10月18日、19日に山口県の山口きらら博記念公園にて、子供から大人まで楽しみながら環境への理解を深めることができる参加・体験型の環境イベント「やまぐちいきいきエコフェア」が開催されました。当社下松工場からも体験型ブースをはじめ多くのエコ製品を展示したところ、来場された方々にも大変好評でした。



財務諸表(連結)

中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科目 | 当中間期 (平成20年9月30日現在) | 前期 (平成20年3月31日現在) |
|---------------|------------------------|----------------------|
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 64,479 | 57,094 |
| 現金及び預金 | 13,943 | 9,310 |
| 受取手形及び売掛金 | 21,569 | 20,732 |
| たな卸資産 | 24,323 | 23,161 |
| その他 | 4,916 | 4,179 |
| 貸倒引当金 | △273 | △288 |
| 固定資産 | 64,485 | 65,653 |
| 有形固定資産 | 55,057 | 55,728 |
| 建物及び構築物 | 20,169 | 19,536 |
| 機械装置及び運搬具 | 20,018 | 21,271 |
| 土地 | 11,959 | 11,960 |
| その他 | 2,909 | 2,960 |
| 無形固定資産 | 711 | 682 |
| 投資その他の資産 | 8,716 | 9,242 |
| 投資有価証券 | 4,892 | 5,166 |
| その他 | 3,875 | 4,125 |
| 貸倒引当金 | △51 | △49 |
| 資産合計 | 128,964 | 122,748 |

| 科目 | 当中間期 (平成20年9月30日現在) | 前期 (平成20年3月31日現在) |
|------------------|------------------------|----------------------|
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 43,779 | 40,039 |
| 買掛金 | 17,071 | 12,077 |
| 短期借入金 | 19,536 | 20,794 |
| 未払法人税等 | 1,843 | 1,045 |
| その他 | 5,327 | 6,121 |
| 固定負債 | 8,184 | 8,157 |
| 社債 | 5,000 | 5,000 |
| 長期借入金 | 2,115 | 2,079 |
| その他 | 1,068 | 1,077 |
| 負債合計 | 51,963 | 48,196 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 73,986 | 71,039 |
| 資本金 | 5,040 | 5,040 |
| 資本剰余金 | 6 | 6 |
| 利益剰余金 | 68,956 | 66,008 |
| 自己株式 | △17 | △15 |
| 評価・換算差額等 | 918 | 1,323 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,310 | 1,474 |
| 繰延ヘッジ損益 | △51 | 38 |
| 為替換算調整勘定 | △340 | △189 |
| 少数株主持分 | 2,095 | 2,188 |
| 純資産合計 | 77,001 | 74,551 |
| 負債及び純資産合計 | 128,964 | 122,748 |

POINT

資産

流動資産：現金及び預金、売掛債権の増加により増加しました。

固定資産：主として保有株式の時価の下落により投資有価証券が減少しました。

負債

借入金の返済があったものの、たな卸資産等の仕入債務の増加により増加しました。

中間連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日) | 前中間期 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日) | 前期 (平成19年4月1日～ 平成20年3月31日) |
|-----------------|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|
| 売上高 | 66,004 | 59,383 | 119,342 |
| 売上原価 | 55,520 | 52,267 | 103,560 |
| 売上総利益 | 10,483 | 7,115 | 15,782 |
| 販売費及び一般管理費 | 5,512 | 5,188 | 10,585 |
| 営業利益 | 4,971 | 1,926 | 5,196 |
| 営業外収益 | 548 | 396 | 768 |
| 営業外費用 | 299 | 443 | 868 |
| 経常利益 | 5,220 | 1,879 | 5,096 |
| 特別利益 | 0 | 0 | 1,409 |
| 特別損失 | 0 | 0 | 936 |
| 税金等調整前中間(当期)純利益 | 5,220 | 1,879 | 5,568 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1,885 | 785 | 1,500 |
| 法人税等調整額 | — | — | 898 |
| 少数株主利益又は損失(△) | 34 | △68 | △197 |
| 中間(当期)純利益 | 3,300 | 1,162 | 3,367 |

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科 目 | 当中間期 (平成20年4月1日～ 平成20年9月30日) | 前中間期 (平成19年4月1日～ 平成19年9月30日) |
|---------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 9,844 | 5,029 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △3,724 | △3,141 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △1,432 | △1,952 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △54 | 77 |
| 現金及び現金同等物の増減額(減少：△) | 4,633 | 13 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 9,310 | 12,774 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 13,943 | 12,788 |

会社概要

【会社の概況（平成20年9月30日現在）】

| | |
|------|---|
| 商号 | 東洋鋼鋳株式会社 |
| 本社 | 東京都千代田区四番町2番地12 |
| 設立 | 昭和9年4月11日 |
| 資本金 | 50億4,000万円 |
| 従業員数 | 2,687名(連結) |
| 事業所 | 本社(東京都) 大阪支店 仙台営業所 名古屋営業所 広島営業所 福岡営業所 技術研究所(山口県下松市) 下松工場(山口県下松市) |

【役員（平成20年9月30日現在）】

| | |
|-----------|------|
| 取締役会長 | 三木啓史 |
| 代表取締役社長 | 田中厚夫 |
| 取締役専務執行役員 | 森中俊 |
| 取締役専務執行役員 | 岩崎一守 |
| 取締役専務執行役員 | 伊藤啓志 |
| 取締役専務執行役員 | 藤井厚雄 |
| 取締役専務執行役員 | 富永勝彦 |
| 取締役専務執行役員 | 藤井正彦 |
| 常勤監査役 | 鈴木伸賢 |
| 常勤監査役 | 田口輝彦 |
| 監査役 | 宮本光晴 |
| 監査役 | 大川邦潤 |
| 執行役員 | 大谷憲史 |
| 執行役員 | 宮地正文 |
| 執行役員 | 坂本信夫 |
| 執行役員 | 辰巳英之 |
| 執行役員 | 毎田知正 |

【東洋鋼鋳グループ】

国内

鋼鋳商事株式会社
鋼鋳工業株式会社
KYテクノロジー株式会社
東洋パックス株式会社
共同海運株式会社
下松運輸株式会社
東洋パートナー株式会社

海外

TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD.
東志投資有限公司
深圳東紅開発磁盤有限公司
東紅開発磁盤香港有限公司

株式の状況

平成20年9月30日現在

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 403,200,000株 |
| 発行済株式の総数 | 100,800,000株 |
| 株主数 | 3,218名 |

大株主（上位7名）

平成20年9月30日現在

| 株主名 | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|---|---------|---------|
| 東洋製罐株式会社 | 47,885 | 47.51 |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 4,806 | 4.77 |
| 株式会社三井住友銀行 | 2,980 | 2.96 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 2,311 | 2.29 |
| シービーエヌアイ ティエイ インターナショナル キャップ リニュー ポートフォリオ | 2,110 | 2.09 |
| 財団法人東洋食品研究所 | 2,055 | 2.04 |
| 三井住友海上火災保険株式会社 | 1,680 | 1.67 |

株主メモ

- ◆事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- ◆定時株主総会 毎年6月開催
- ◆基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
(その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日)
- ◆株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
- ◆同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
住友信託銀行株式会社証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社証券代行部
(電話照会先) 住所変更等用紙のご請求 ☎0120-175-417
その他のご照会 ☎0120-176-417
(インターネット) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
(ホームページURL)
- ◆同取次所 住友信託銀行株式会社本店及び全国各支店
- ◆公告方法 電子公告
(当社ホームページ <http://www.toyokohan.co.jp> に掲載いたします。)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

東洋鋼鋳株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12 電話 (03)5211-6211(代表)
ホームページURL <http://www.toyokohan.co.jp>



この冊子は、再生紙を使用しています。